

一般社団法人製剤機械技術学会 2018年度 特別講演会プログラム

日時：2018年6月26日（火）14：45～16：45

場所： 日本橋ライフサイエンスハブ 8F （東京都中央区）

14：45～14：50 開会の辞 製剤機械技術学会 会長 草井 章

14：50～15：45 特別講演 1 座長 板井 茂（元静岡県立大学 教授）

演題：『最近の製剤及びプロセス開発』

岐阜薬科大学

竹内 洋文

講演要旨

最近の製剤開発に関して、そのコンセプトを概観する。その中で、特に研究室の研究テーマともなっている「人に優しい製剤」を取り上げ、リポソーム、口腔内崩壊錠等の研究事例を示す。一方、プロセスに関しては、打錠に関する話題、プロセスの工夫によって製剤特性を制御する試み、最近話題となっている連続生産（Continuous Manufacturing）について紹介する予定である。



15：50～16：45 特別講演 2 座長 杉原 昭夫（アステラスファーマテック株式会社）

演題：『ジェネリック医薬品における高品質、高付加価値製剤の開発の現状と展望』

沢井製薬株式会社

谷野 忠嗣

講演要旨

平成27年度の国民一人あたりの年間医療費は33万3千円に上っており、そのうちの40%は公費で賄われている。このため政府はジェネリック医薬品の普及を進めており、2020年の9月までにその数量シェアを80%超とすることを目標としている。これを受けてジェネリック医薬品メーカーは数量の確保を目指すべく対応する一方、高品質ならびに付加価値の高い医薬品の開発に努力を傾けている。たとえば調剤しやすい、服用しやすい、識別性が高い、安定性が優れるなどであるが、これらの具体的な事例を紹介しながら、ジェネリック医薬品メーカーの製剤開発のコンセプトの現状と今後について若干の説明をしてみたい。

